

# 平成 28 年度に実施した主な施策

## 第 1 節 地球環境にやさしい循環型のまちをめざして

関連事業費 1,028 百万円  
(うち環境部 797 百万円)

### 地球温暖化対策

- ① 「長岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」に基づき、長岡市域における温室効果ガス排出量の推計を行いました。直近の排出量（平成 26 年度分）は、計画に定めた基準年（平成 19 年度）の排出量を 2.2%上回る結果となりました。これは、原子力発電の稼働停止に伴い、火力発電所の稼働が増加し、発電に係る二酸化炭素排出量が増加したことが要因と考えられます。

平成 26 年度温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）

	基準 (平成 19 年度)	平成 25 年度	平成 26 年度	中期目標 (平成 32 年度)
排出量（トン）	2,449,000	2,540,000	2,502,000	1,800,000
基準年度比	—	+3.7%	+2.2%	▲26.5%

(本編記載箇所 4 ページ)

- ② 「長岡市地球温暖化対策実行計画（第 3 次）」に基づき、市役所での温室効果ガス排出量削減に取り組みました。平成 28 年度の市の事務・事業から排出された温室効果ガスは、基準年度（平成 24 年度）に比べて 3.0%減となりました。

削減目標に向け、空調設備をはじめとした各設備の使用における省エネ・節電の取り組みやごみの減量と分別について、一層の周知を図っていきます。

平成 28 年度温室効果ガス排出量（二酸化炭素換算）

	基準年度 (平成 24 年度)	平成 28 年度	目標年度 (平成 29 年度)
排出量（トン）	83,984	81,484	79,800
基準年度比	—	▲3.0%	▲5%

(本編記載箇所 5 ページ)

## 新エネルギーの利用促進

- ③ 一般住宅・事業所における太陽光発電設備等の新エネ・省エネ設備の導入に対する補助を行いました。太陽光発電設備については、75 件、361kW 分に補助しました。

住宅用太陽光発電システム設置補助件数等の推移

	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
件数	52	64	56	71	75
設置規模 (kw)	250	343	274	374	361

(本編記載箇所 8 ページ)

## 廃棄物の減量とリサイクル

- ④ 燃やすごみの削減を目的に、生ごみバイオガス発電センターを平成 25 年 7 月から本格稼働させ、生ごみの分別を推進しています。平成 28 年度は、10,647 トンの生ごみを処理し、2,692,690kWh を発電、この余剰電力を「再生可能エネルギー固定価格買取制度」により、電力会社へ売電しました。

生ごみの分別前（平成 24 年度）と比べ、燃やすごみの量を約 2 割（15,680 トン）削減することができました。



生ごみバイオガス発電センター

(本編記載箇所 8、14 ページ)

## 第 2 節 環境汚染のない安全なまちをめざして

関連事業費 3,477 百万円  
(うち環境部 913 百万円)

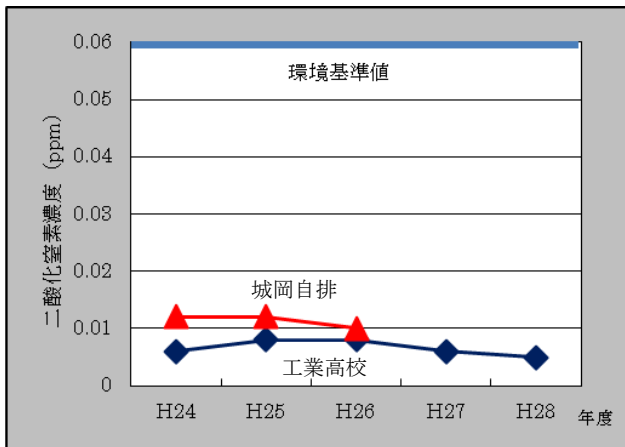
### 大気・水環境・静けさの保全

(本編記載箇所 26～29、35～36、42～44 ページ)

- ① 市内の大気汚染、河川・海域の水質汚濁及び騒音等の状況を把握するため、各種環境調査を実施しました。調査結果は、環境基準や市の環境基本計画で定める指標に概ね適合しており、良好な環境が保たれています。

## ■大気汚染

### ＜二酸化窒素の年平均値の推移＞



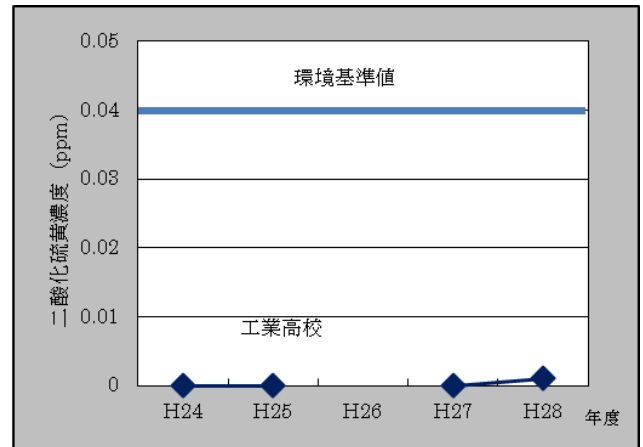
#### 環境基準

1 時間値の 1 日平均値 0.04～0.06 ppm のゾーン内又はそれ以下

※平成 28 年度の測定結果は速報値

※平成 27、28 年度において、城岡自排は故障のため欠測

### ＜二酸化硫黄の年平均値の推移＞



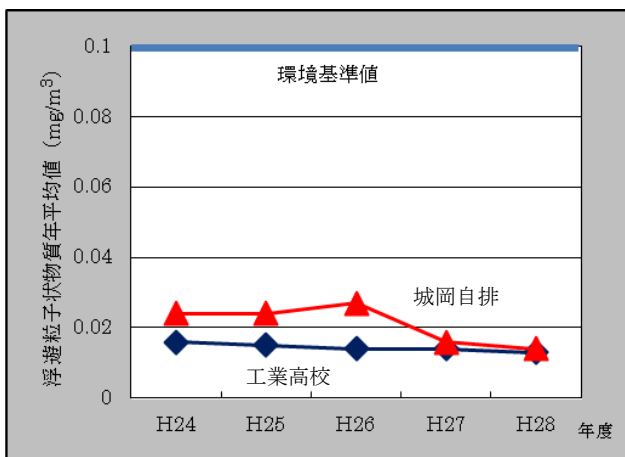
#### 環境基準

1 時間値の 1 日平均値 0.04ppm 以下  
かつ 1 時間値 0.1ppm 以下

※平成 28 年度の測定結果は速報値

※平成 26 年度は故障のため欠測

### ＜浮遊粒子状物質の年平均値の推移＞

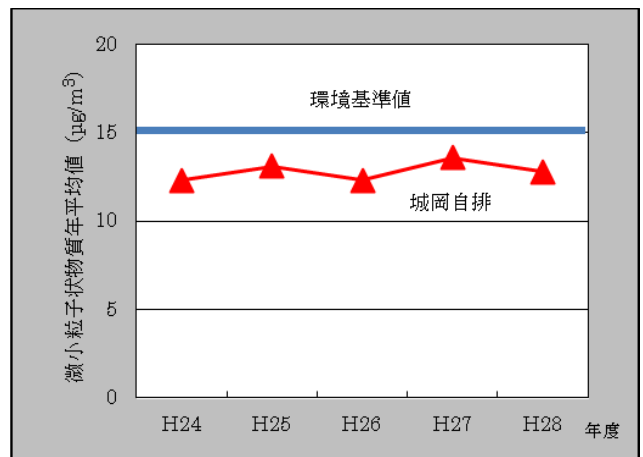


#### 環境基準

1 時間値の 1 日平均値 0.10 mg/m³ 以下  
かつ 1 時間値 0.20 mg/m³ 以下

※平成 28 年度の測定結果は速報値

### ＜微小粒子状物質の年平均値の推移＞

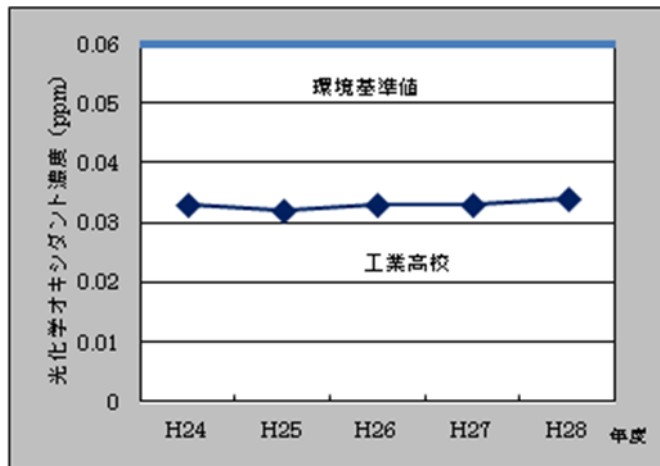


#### 環境基準

1 年平均値が 15 μg/m³ 以下  
かつ 1 日平均値が 35 μg/m³ 以下

※平成 28 年度の測定結果は速報値

＜光化学オキシダントの 1 時間値年平均値の推移＞



環境基準

1 時間値 0.06 ppm 以下

※平成 28 年度の測定結果は速報値

■水質汚濁（河川）

平成 28 年度 主な河川の BOD 経年変化

河川名（調査地点）	環境指標 (mg/L)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
太田川（永代橋）	3 以下	1.4	1.4	1.4	1.2	2.3	1.0	1.2
黒 川（黒川橋）	3 以下	1.7	1.6	1.8	0.9	1.3	1.4	1.0
柿 川（新柿橋）	2 以下	1.0	1.7	1.5	1.1	1.0	0.9	0.6
栖吉川（令終橋）	5 以下	0.9	1.0	1.2	1.0	0.5	0.7	0.8

■水質汚濁（海水浴場）

平成 28 年度 海水浴場の水質調査結果（水浴場開設前調査）

項 目 水浴場名	ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL)	油膜の有無	COD (化学的酸素 要求量) (mg/L)	透明度 (m)	判 定※
野積海水浴場	2 未満	認められない	1.9	1 以上	水質 AA
寺泊中央海水浴場	2 未満	認められない	2.3	1 以上	水質 B
金山海水浴場	2 未満	認められない	1.9	1 以上	水質 AA
郷本海水浴場	2 未満	認められない	1.7	1 以上	水質 AA
基準（水質 AA）	2 未満	認められない	2 以下	1 以上	
（水質 A）	100 以下	認められない	2 以下	1 以上	
（水質 B）	400 以下	常時認められない	5 以下	1 未満～ 0.5 以上	
（水質 C）	1,000 以下	常時認められない	8 以下	1 未満～ 0.5 以上	

調査期間：平成 28 年 4 月 25 日～5 月 16 日

※ 水質が「AA」及び「A」は水浴に適した水質であり、「B」及び「C」は水浴が可能な水質

■騒音（高速自動車道）

平成 28 年度 高速自動車道騒音測定結果

No.	調 査 地 点	道 路 へ の 距 離 ( m )	遮 音 壁 の 長 さ ( m )	騒音レベル(デシベル)				環境基準の 地域類型 <sup>(注)</sup>
				昼間	環境基準	夜間	環境基準	
1	新開町	25	212	52	65	52	60	B類型相当 (市街化調整 区域のため、 類型指定は されていない)
2	雁島町	94	163	53	65	54	60	
3	南新保町	100	182	57	65	55	60	
4	宮本町 1 丁目	110	無	59	65	55	60	
5	灰島新田	70	520	59	65	53	60	
6	杉之森	76	320	50	65	52	60	
7	中之島	39	無	62	65	57	60	C類型
8	神谷	20	150	58	70	52	65	幹線道路 近接空間
9	来迎寺	50	350	51	65	48	60	B類型

※ 環境基準においては、概ね都市計画法における用途地域を基に地域類型を定めている。

■騒音（一般国道等）

平成 28 年度 環境騒音測定結果

(単位:デシベル)

地域	地域類型	調 査 地 点	騒 音 レ ベ ル ・ 環 境 基 準				用 途 地 域	車 線 数
			昼間	基準値	夜間	基準値		
道路に面する地域	A	下柳 1 丁目	70	70	65	65	第 2 低 層 住 専	2(幹線道路)
		高畑町	67	70	63	65	調 整 ( A 相 当 )	4(幹線道路)
	B	水道町 5	70※	65	62※	60	第 1 住 居	2
		関原町 1 丁目	74※	70	65	65	第 2 住 居	4(幹線道路)
		栃尾原町 1 丁目	64	70	53	65	第 1 住 居	2(幹線道路)
	C	表町 1 丁目	67	70	59	65	商 業	2(幹線道路)
		宮内町	67	70	62	65	近 隣 商 業	4(幹線道路)
		金沢 3 丁目	61	65	52	60	準 工 業	2
		新栄町 3 丁目	61	65	43	60	準 工 業	2
一般地域	A	西藏王 3 丁目	44	55	38	45	風 致 地 区	—
		学校町1丁目	46	55	37	45	第 1 中 高 住 専	—
		谷内 2 丁目	52	55	42	45	第 1 中 高 住 専	—
	B	大島本町 3 丁目	45	55	39	45	第 1 住 居	—
		幸町 2 丁目	40	55	34	45	第 1 住 居	—
		金町 2 丁目	51	55	43	45	第 1 住 居	—
	C	寿 1 丁目	48	60	41	50	準 工 業	—
		新産 2 丁目	52	60	49	50	準 工 業	—
		栃尾本町	54	60	45	50	商 業	—

(注) 1 昼間とは午前 6 時～午後 10 時、夜間とは午後 10 時～午前 6 時をいう。

2 「※」 は環境基準超過、(幹線道路) は、幹線道路に近接する空間をいう。

- ② 平成 26 年 9 月に「長岡市地下水保全条例」を改正し、消雪面積が 150 ㎡以上の消雪パイプ設置者に対して節水型降雪検知器の設置を義務付けました。この改正に伴い、市民及び事業者が既存の消雪パイプに節水型降雪検知器を設置する際の経費の一部を補助しています。

(本編記載箇所 38～39 ページ)

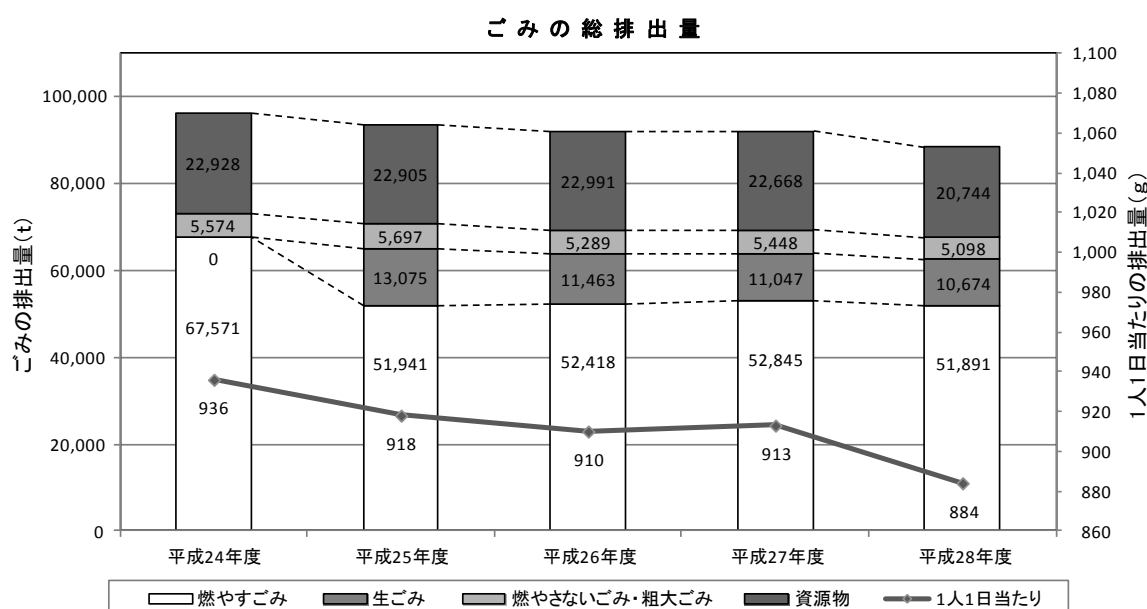
## 廃棄物の適正処理

- ③ 平成 28 年度の長岡市のごみと資源物の排出量は、平成 27 年度と比べ、約 3,601 トン少ない 88,407 トンでした。市民一人一日当たりの排出量も 913 グラムから 884 グラムとなり、約 29 グラム減少しています。平成 27 年度と比べ、ごみの量が減少した主な理由は、市民一人ひとりのごみ減量の意識の向上が図られたことが考えられます。

## 長岡市のごみと資源物排出量の推移

(単位：トン)

区分	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
燃やすごみ	67,571	51,941	52,418	52,845	51,891
生ごみ	—	13,075	11,463	11,047	10,674
燃やさないごみ・粗大ごみ	5,574	5,697	5,289	5,448	5,098
資源物	22,928	22,906	22,991	22,668	20,744
計	96,073	93,619	92,161	92,008	88,407
1 日 1 人当たりの発生量 (g)	936	918	910	913	884



(本編記載箇所 48～49 ページ)

### **最終処分場の整備**

- ④ 市内４ヵ所にある最終処分場の残余年数は、平成 28 年度末時点で 5 年位の見込みのため、市では柿町にある現最終処分場の隣に新たな処分場の整備を計画しています。この新処分場は、埋立地を屋根で覆う被覆型とし、さらに浸出水処理水を下水道に放流することで、地元の安全・安心を確保したクローズド型の施設です。平成 33 年 4 月の供用開始を目指し整備を行っています。



新最終処分場（完成イメージ）

（本編記載箇所 50 ページ）

## **第 3 節 心の豊かさが感じられる快適で魅力的なまちをめざして**

関連事業費 3,540 百万円

（うち環境部 52 百万円）

### **自然環境の保全**

- ① 国の天然記念物であるトキの佐渡における飼育・繁殖や野生復帰事業を支援、補完するため、寺泊夏戸地域にある「長岡市トキ分散飼育センター」でトキの分散飼育を行っています。平成 28 年度は、長岡生まれのトキ 3 羽を佐渡トキ保護センターへ移送しました。平成 28 年 3 月以降、佐渡の野生下に放鳥されたトキが、海を隔てて対岸にある当市で相次いで確認されています。

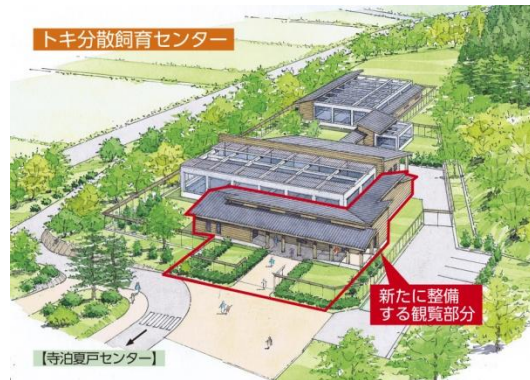


長岡市内で確認されたトキ

（本編記載箇所 57 ページ）

- ② トキと自然の学習館において、トキの生態や長岡の自然を紹介する展示のほか、環境教育講座を開催しました。

また、より多くの市民にトキ保護の重要性について、さらに関心を深めてもらうため、長岡市トキ分散飼育センターで飼育しているトキの公開に向けて検討を行いました。トキの美しい羽の色を見ていただけるよう、既存の飼育ケージの隣に新たに観覧施設を整備する計画です。



長岡市トキ分散飼育センター（完成イメージ）

（本編記載箇所 56～57 ページ）

- ③ サルによる農作物被害が発生している栃尾地域において、被害の未然防止等を図ることを目的として、平成 28 年度からサルの行動域調査（テレメトリー調査）を行っています。初年度ではあったものの、3 群れの大まかな行動範囲を把握することができ、市のHP等で公開しました。

（本編記載箇所 58 ページ）

## 第4節 自発的な活動の推進

関連事業費 3 百万円

（うち環境部 2 百万円）

### 環境啓発・教育の推進

- ① リバーサイド千秋アピタ長岡店「エコフェスタ」において、環境啓発ブースを設け、「エコドライブ体験」や「発電体験」などを通じ、地球温暖化防止をはじめとする環境保全について啓発を行いました。

（本編記載箇所 74 ページ）

- ② 環境衛生センターにおいて「夏休み子ども環境体験フェア」を開催し、ごみ処理施設の見学やペットボトルソーラーカー作り等の体験を通じて、ごみの減量と地球温暖化防止について啓発を行いました。

（本編記載箇所 74 ページ）



- ③ 3Rを始めとした環境問題を考えるきっかけとしてもらうため、ごみ処理施設・リサイクルプラザ・生ごみバイオガス発電センターの見学を受け入れています。平成28年度は148件、3,583人の方が見学しました。

(本編記載箇所 75 ページ)

- ④ 自然環境保全の重要性について理解を深めてもらうため、小学生を対象とした「こども環境探検隊」を3日間開催し、小国町法末のビオトープや遊歩道等において、水生生物の採取や植物の観察を実施しました。

(本編記載箇所 77 ページ)

- ⑤ 新潟県地球温暖化防止活動推進員と連携し、地球温暖化の基本的な知識と関心を醸成し、家庭で地球温暖化防止の取組を促進するため、市内の4校の小学6年生を対象に「地球温暖化対策講座」を実施しました。

(本編記載箇所 79 ページ)

- ⑥ ごみの減量・リサイクルの必要性について市民や事業者から理解を深めてもらうため、「ごみ情報誌」を発行しています。平成28年度は2回発行し、市政だよりとともに全戸配布しました。

(本編記載箇所 79 ページ)



生ごみバイオガス発電センターの見学



市内小学校での地球温暖化対策講座